



【特別対談】 わたしたちが描く未来へ

基本法制定後の変化は

「男女共同参画社会基本法」が平成11（1999）年に制定され、25年が経過しました。制定後、社会や周囲の変化はいかがでしょうか。

伊藤 私はその頃、国立女性教育会館NWE C（ヌエック）で仕事をしていたので渦中にいたんです。だから国会で基本法が成立した日には、拍手って感じて。余談ですが、私の誕生日に制定されたので、当時はネタにしていました（笑）。最近感じるのは、「ジェンダー」という言葉が使えるようになったことがすごい変化です。

菅原（制定が誕生日）そうなんですか？（笑）当時はジェンダーという言葉自体使えなかった？

伊藤 それは基本法ができて、これが進むかなと思ったら揺り戻しが来たわけです。2000年代初めにそれがすごくて、「ジェンダー」を使うなというお達しも出た。ここ数年でジェンダー平等が使われ、セクシュアル・マイノリティへの理解が広がったことはとても大きいです。

渡米とジェンダー

菅原 「男女平等」より「ジェンダー平等」という言葉の方がしっくりくる。そこにはマイノリティの方たちを含みたい気持ちがあるわけじゃないですか。若い人を中心に、性的マイノリティを受け入れる方向に変わって、ジェンダーという言葉も使いやすくなったと感じます。

伊藤 25年前、何してました？

菅原 渡米した年で、私にとつてはすごい変化の年。渡米したから、性的マイノリティの方について知ることができた。（性的指向が）日本では隠されていたけど、アメリカでは性の多様性に触れる機会が普通にあって、そこで柔軟に考えられるようになったんです。

伊藤 日本が息苦しいからアメリカにという面もある？

菅原 そういふ面はありました。高校のときまで私、女の子だから苦しいって気づきはなかったんです。ただ、ずっと男の子になりたいと思ってた。でも、性自認は女性で好きになる人も男性。そこに違和感はないのに、「男の子になりた

山形県男女共同参画センターチェリア 館長
東北公益文科大学 名誉教授

山形県男女共同参画審議会 委員
あかるさかおる・ナリワイALLIANCE 代表



伊藤 眞知子 × 菅原 明香



県男女共同参画センター「チェリア」の館長伊藤眞知子さんと、本紙で男女共同参画推進コラムを執筆し県男女共同参画審議会の委員も務める菅原明香さん。男女共同参画の推進について、県の最前線で活躍されるお二人は旧知の仲。これまでの活動を通して見る社会の変化やこれからの展望についてお話を聞きました。



▲対談は、終始和やかな雰囲気で行われた

男女共同参画に関する動き

※（ ）内は西暦の下2桁

- 平成11（99）年度
男女共同参画社会基本法 公布・施行
男女の人權を尊重し、性別に関わりなく、個性や能力を発揮できる「男女共同参画社会の実現」を目指す。
- 平成13（01）年度
山形県男女共同参画センター開設
愛称の「チェリア」は、チェリとエリアの組み合わせ。さくらんぼの形が男女仲良く並んでいるように見えることも理由の一つ。
- 平成14（02）年度
山形県男女共同参画推進条例制定
- 山形県男女共同参画審議会設置
- 平成18（06）年度
「チャレンジ応援やまがた」開設
チャレンジしたい女性を応援するためのサイト。講座やイベント、活躍事例の情報が入手可能。
- 菅原さんの事例も紹介されています▼
- 平成27（15）年度
女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法） 公布・施行
- 平成28（16）年度
山形県男女共同参画推進員設置
- 平成29（17）年度
ナリワイALLIANCE発足
鶴岡ナリワイプロジェクトの「ナリワイ起業講座」修了生が集う小さな社会起業家コミュニティ。アライアンスは同盟という意味。
- 平成30（18）年度
「ジェンダー白熱教室」開催
東北公益文科大学の人気授業「ジェンダー論」を一部アレンジし公開された（講師・伊藤眞知子氏）。
- 令和2（20）年度
三川町男女共同参画計画策定
- 「共に認め合い、支え合い、一人ひとりがいきいきと輝くまち」
- 令和5（23）年度
性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律（LGB T理解増進法） 公布・施行
- 山形県パートナーシップ宣誓制度創設
- 本紙にて男女共同参画推進コラム掲載開始



い」と、ずっと思ってた。今考えるとそれって、男の子だったらできることが、女だから許されないことがいっぱいあったから。それがアメリカに行けば何か変わるんじゃないか、チャンスが開けるんじゃないかと思っていました。ただ、それが自分の中のジェンダー意識に関わっているのか、そこまではわかってなかったです。女だかららしく振る舞わなきゃいけない。社会ってそういうもので、「そのせいで大変なんだよ」って、誰も教えてくれなかったから（ジェンダーの問題だとは気づかなかった）。

（参考）『山形県男女共同参画白書』



自分のせいじゃない

伊藤 それがジェンダーの問題だつて、ハッキリつながつたのはいつですか？

菅原 結婚して出産して、ほとんど自分の人権がなくなっていく、母・嫁として振る舞わなくてはならない；そうして苦しくなったとき、鶴岡ナリワイプロジェクトに出会ったのは大きな一歩でした。あと、眞知子先生のジェンダー白熱教室では衝撃を受けました：なんだ私のせいじゃなくて「社会のせい」だったんだって。システムのせいでもう思ってたかったということが、理論としてわかった。そしたらなんかパーって（明るく開いた）。だから眞知子先生の存在は大きいですね。

伊藤 2001年に東北公益文科大学に来て、ジェンダー論が私のメイン授業でした。授業をずっと続けてきて、「聴きたい」という声がたくさんあつたんです。それで庄内ちえりあエリア塾修了生の会主催で開催した。自分が悪いんじゃない、社会の仕組みがそうさせてるということへの気づきはすごくうれしいです。

女性つてうまくいかないとき

菅原 結構自分のせいにしちゃってるんですよ。「あなたの苦しい現状は、社会の仕組みのせいかもしれない。自分を責め続ける、過小評価しないこと」、そういうことに気づくだけでも、救われる人がいるんじゃないかなと思います。

1111の自己決定

伊藤 女性の方が役割とか窮屈にさせられてる部分が多いんだけど、でも男性も同じなのよね。「自分が頑張らなかつたから駄目なんだ」みたいなところが強まっているのは良くないですね。そういう部分で、「社会を変えなくちゃ」って気持ちが向いてきたわけ？

菅原 そうですね。眞知子先生にきつかけをもらったこと、そして、ナリワイという働き方を始めたことがやっぱり大きいですね。ナリワイって、好きなこと得意なことで身の回りの困りごとや地域のことを掛け合わせて、自分だけのビジネス、小さい変化を自分の中に起こすこと。どんなに小さいものでも対価をもらおうと、そこに覚悟と責任が生

まれるわけですよ。一つ一つ自己決定していくと、今までどんなに「他人軸」、人からどう思われるかを気にして生きてきたかってことがわかる。自己決定を重ねていくと、だんだん自信を取り戻していく、本当の自分に近づいていく。それを繰り返して「生きるって楽しい」っていうふうにやつと思えた；自己決定をするっていうのが、すごく大事ななんです。

自分を大切にすること

菅原 今思うと、学校でも自己決定をする機会を与えられて来なかつたなって。

伊藤 本当の意味でね。自分で決めたかのようにだけど、選択肢が限られている。進路選びとかでも。

子どもが見る大人の姿

伊藤 学校現場でも今だいぶ変わってきている部分がありますよね。女子も引っ込んでなくなつて来ると思うし、言えるようになって来ると思う。でも変わらない部分もあると思うですね。

菅原 子どもたちの平等性は変わってきた部分があるかな。でもPTAや先生、子どもたちが教育者として見る大人たちはあまり変わってない気がするんです。校誌の寄稿なんかを見ても男ばかり；女は今までいなかつたんですかって（笑）。

伊藤 PTA会長にも女性いないの？すごいそれは…

菅原 数年前まで「PTA会長は男性とする」って規約に書いてあつたんです。今は変わって女性もなれるけど；式典などでも男性ばかりで、おかしいと思わないっていうことに違和感を抱きました。

伊藤 三川町の名誉町民第一号ってどなたかご存知？三川町は新しい住民の方がどんどん入つて来けど、PTAには関わりたくないし、やるならやる間だけ我慢してみたいになつちやつてるのね。大人側が変

わらない。そこを変えるにはどうしたらいいですか？



男女共同参画に関する用語集

※「山形県男女共同参画白書」より抜粋

■アンコンシヤス・バイアス (無意識の思い込み) 人が無意識に持つ思い込み。過去の経験によって、気づかず身に付けたもので、意図せず、行動や意思決定に影響を与える。

■エンパワーメント(力をつけること) 過去における社会的・構造的な差別の中で奪われてきた、本来持っている力を取り戻すこと。個々の女性が自ら意識と能力を高め、政治的、経済的、社会のおよび文化的に力を持った存在になること。

■クオータ制(割り当て制) 審議会の人数など男女の比率に備りがないように定める方法。県の男女共同参画審議会もクオータ制を導入している。

■ジェンダー(文化的社会的な性別) 「女らしさ」「男らしさ」、「女の役割」「男の役割」など、社会的・文化的に作られた性別のこと。人が誕生と同時に振り分けられる男・女という生物学的な性別(sex)や性徴・性的魅力(Sexuality)と区別して用いる。

■ジェンダーバイアス 社会のあらゆる場面に存在する、ジェンダーにかかわる偏りをいう。社会の仕組みや人々の行動様式、意識など、さまざまなレベルにおいて明示されたものであれ、暗黙のものであれ、性による区別や男女の非対称的な扱いがなされていること。

■性的マイノリティ LGBTやその他の多様な性自認/性同一性や性的指向を持つ人。

■LGBT・LGBTQ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニング、クイアの頭文字をとった言葉。性的マイノリティの人たちを表す言葉の一つとして使われる。

L (lesbian) 性自認・性同一性が女性で、性的指向が女性に向く人。女性同性愛者。

G (gay) 性自認・性同一性が男性で、性的指向が男性に向く人。男性同性愛者。

B (bisexual) 性的指向が男女どちらにも向く人。両性愛者。

T (transgender) 出生時に割り当てられた性別と性自認/性同一性が異なる人。

Q (Questioning) 自身の性あり方について特定の枠に属さない人。自身もわからない。決まていないなどの人。

Q (Queer) 規範的とされる性のあり方以外を包括的に表す言葉。

地域コミュニティへの参画

伊藤 やつぱり大人がジェンダーでも対等な関係性を子どもたちに見せていかないとけない。ということですよね。

菅原 本当にそうだと思います。でも、法律とか制度が入っていない部分は、なかなか変わっていかないだろうなと思います。

伊藤 慣行とか慣習とかの部分ね。私は法律とか制度が変われば、変わらざるを得ない部分があると思ってるけど、そうじゃない部分です。むしろ、誰かが声を上げたり、ちよっと違うやり方をしていったりしないと身近な部分が変わっていかない。子ども会とか学校は、その間我慢すればいいかもしれないけど、地域コミュニティはずっと関わらざるを得ないでしょ。特に今、災害が多いし、防災とかの部分で女性の発言権ないと、避難所立ち上げた時に困るんですよ。

菅原 めちゃくちゃ困りますね。だから平時から役員とかに女性が入ってないと、実際みんな困るわけね。山形は全国でもPT

伊藤 私は、地域の中に学びの場があると思うし、行政はそういうところを応援して欲しい。三川町でも持続可能な形で、町内の特に若い女性たちのエンパワーメントの機会を。チェリア塾に送り出すでもいいんですよ。あとは今、女性が働くのは当たり前になってるから、家族の中でも役割分担が固定化しないように、きちんと対話ができるってことが大事。それを浸透させていきたいなと思っています。

菅原 学校で見る大人もそうだけど、家庭が一番小さい社会で、家族は子どもが一番身近に見ているロールモデル(手本)です。

未来へのメッセージ

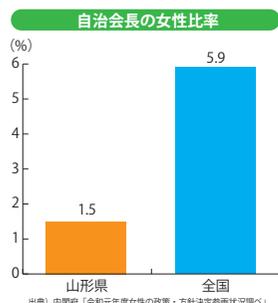
今後期待する社会の変化、町民等へのメッセージをお願いします。

伊藤 どんどん増えていくといいと思うし、行政はそういうところを応援して欲しい。三川町でも持続可能な形で、町内の特に若い女性たちのエンパワーメントの機会を。チェリア塾に送り出すでもいいんですよ。あとは今、女性が働くのは当たり前になってるから、家族の中でも役割分担が固定化しないように、きちんと対話ができるってことが大事。それを浸透させていきたいなと思っています。

菅原 学校で見る大人もそうだけど、家庭が一番小さい社会で、家族は子どもが一番身近に見ているロールモデル(手本)です。

伊藤 日本は「男はこう女はこう」という決めつけや性別役割の押しつけが強い社会だから、「男らしく」「女らしく」育ってしまっ、「人間らしさ」を失ってしまう。大げさかもしれないけれど、やつぱり

A会長、自治会長(女性の割合が)下の方なんです。ずっと変わらず。身近な地域コミュニティの部分がすごく弱くて、年齢が上の男性たちがばつかりの世界になっている。そこをどう変えていくかは本当に難しい。



仲間と作る未来

伊藤 さつきジェンダー白熱教室のことが出たけど、学ぶ機会を求めていたわけですよね。学校を卒業してしまくと、学びたいとき、もつと知りたいときに学ぶ機会はなかなかない。日常生活の中でモヤモヤしたり嫌だなと思ったりして、それを自分でもつと学んだり講座に行かれたりしたと思うけど、やつぱり仲間とつながったのは大きかったですよ？

親や大人たちがジェンダー平等を意識して子育てをしないと未来は変わらないと思う。

子育ては「公共事業」

菅原 家事は生きるために必要なものでないから自分の始末は自分でできないといけないですよ。男の子にも女の子にも、18歳になるまでに生活力を付けてあげないと、もうこのまま変わらないんじゃないかって思います。

伊藤 子どもが18歳で、身の回りのことができないような自立をして、もうどんな大人として手放していいかなって社会になるといいなと、私も思っています。

菅原 自分の子どももって生まれた時のものじゃないですよ。18歳まで育て上げたなら社会に出してやって、もうその人の人生を歩んでもらえるようにする。子育てってもう「公共事業」だと思っています。公共事業だと思えば、自分の子じゃなくてもお金がかかれるし、「なんで産んでる人ばつかり」という思いもなくなるんじゃないかな。

菅原 そうですね。鶴岡ナリワイプロジェクトのスローガンが『欲しい未来は自分で作ろう！仲間と作ろう！』。未来は自分で作らなきゃ誰も与えてくれないっていうことも一つだけど、やつぱり仲間がいなくてもできないこともある。誰かをつなげることは自分を開いてくれるよ。一緒に学ぶと一人で学ぶより何倍にもなる。自分と全く違う人が世の中にいるんだって知る機会にもなる。

伊藤 そういう活動をしているのはチェリア塾も一緒ですね。一つじゃなくて、いろんなところにつながっていくと、共通してつながる人もいるし、違う出会いもある。そういう学びがあることがすごく大事だよ。



▶町施設のパンフレットで使用されている菅原さん(あかるさかおる)のイラスト。

男女共同参画を学びたい方へ

◆男女共同参画推進員 出前講座
県では、男女共同参画に関する勉強会や研修会に講師(ファシリテーター)を派遣します。

○費用 講師料や旅費は無料
※会場使用料など、その他の必要経費は申込者の負担となります。

活用例

- 自治会等の勉強会
- 子ども会やPTA 研修
- 企業等の研修会 など

詳しくは 県ホームページへ▶

◆チェリア塾基本コース

〔チェリア〕女性の人材育成事業
起業や地域において男女共同参画を推進するキーパーソンを育成するとともに、そのネットワーク化を目的に開催されています。

※庄内地区での開催は令和8年度予定。チェリアでは、ほかにさまざまな事業を実施しています。



伊藤 まさに子どもは社会の、未来を担う人材だから。社会で育てて親らは18歳で手放さうよって。そういう部分では成人年齢が18歳になったのはとても良かった。

結びに

伊藤 女性たちが思っていることを言葉にして行動に起こしていくことで、社会は変えられる。お互い頑張りましょう。

菅原 変わって来ていると思う。頑張りましょう！



地域課題の解決には、地域住民が性別にとらわれないことなく、それぞれの個性と能力を発揮することができ、男女共同参画の視点からの取り組みが求められています。本町では今後も、男女共同参画社会の実現に向けた啓発と取り組みを進めるとともに、活躍する町民等を紹介していきます。

やまがた女性のつながりサポート事業

女性が気軽に立ち寄れる交流スペースの提供やイベントを行っています。
詳しくは県ホームページへ▶

ナリワイ ALLIANCE

idobataらんちたいむ …毎月第3、または第4火曜日
manabi じかん・夜の交流会 など

会場 古今cocon(鶴岡市山王町8-18)
E-mail nariwaialliance@gmail.com
Facebook, Instagram/@nariwaialliance

QRコード

チェリア相談室「男性ほっしりライン」
男性だからといって一人で仕事や悩みを抱え込んでいませんか。
○相談日時 毎月第1〜3水曜日 午後7時〜9時
☎023-646-1181